はじめてのとびこみ

すずきかんすけ

ぼくの足がまったくとどかない海のふかいところにういている島があった。プラスティックでできていて、大人が十人くらいのることができる。

おじさんに「とびこみしよう。」と言われた。

（よしやってみよう。）と思った。まず自分でとびこんでみた。ただま下におちただけだった。水がいうことをきかなくなるからあわてた。手と手をかさねてひじをのばして耳のよこにかまえてとびこむ。とびこんだあともそのままだとどんどんふかくもぐってしまうから手くびを上にむけるとアドバイスをもらった。何回も何回もちょうせんした。やっと五回目でせいこうした。アドバイスどおりに手くびを上にむけると水中から空のほうへとんでいけそうだった。海中は、ふんわりしてぽちゃぽちゃきこえた。うきしまのうらに貝がびっしりこびりついているのが見え

た。太ようの光がなみにうつって、きらきらとかがやいていた。